

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3218 号 2016.8.27 発行

発達障害、成長過程の支援は 自分の特性、理解する機会を 意思の疎通、普段から考えて

北海道新聞 2016年8月17日
発達障害者への支援について話し合ったシンポジウム

乳幼児期から成人後も、支援を必要としている発達障害者は多い。成長の段階ごとで支援の内容は異なり、そして多岐にわたる。障害の特性から生じる生きづらさをどう受け止めればよいか。札幌市内で7月に開かれた日本発達障害ネットワーク北海道のシンポジウム「発達障害のライフステージにおける支援」で、専門家らが支援のあり方について話し合った。



シンポではまず、精神科医で発達障害に詳しい、こころとそだちのクリニックむすびめ（札幌）の田中康雄院長が、思春期以降の発達障害による課題などについて話した。

思春期の子どもは学校の先生、部活の先輩、同級生たちに支えられながら精神的に親離れをしていくという。

これに対し、発達障害の子どもは仲間と親密な関係をつくるのが苦手なことから、「孤立した中で親離れをしなければいけないという大変さを抱えるケースがある」と指摘した。

また、診断名を本人に伝えることについて、子どもは10歳前後に自分の特性に気づくため、そのころから「相談機関に行き、あらかじめ自分の長所や短所の説明を受けておくことが大切だ」と説明した。福祉サービスを利用するなど告知する必要が生じた際、「本人が自分の特性を十分に理解していれば、診断名を受け止められる」という。

成人後については「精神面では睡眠リズムや摂食などの障害、身体面ではアレルギー疾患、高脂血症、高血圧などの併発に注意が必要だ」と述べた。一方、世話をする親には「高齢に伴って体調を崩したり、退職して収入が減るなど経済基盤が弱くなったりし、子どもを支える力が弱まるなどの課題がある」とした。

北斗市の障害者支援施設「星が丘寮」の中野伊知郎施設長は、知的障害を伴った自閉症の利用者が病院などで治療を受ける場合の対応について、利用者が胃がんで入院した事例を挙げて説明した。

まず、担当の職員、看護師、管理職らでチームをつくり対処した。中野さんは「障害のため、もともと意思疎通が困難だったことから、どの程度の痛みがあるのかを理解するのが難しかった」と振り返った。

利用者が治療を受ける際に役立つ支援策として、中野さんは「利用者が『援助してほしい』という気持ちを伝えることができるよう、普段からコミュニケーションの方法を考えておくこと。そして、入院する時には本人をよくわかっている担当者が付き添うなどの配慮が必要」と強調。また、「家族の希望にかなう支援をできるように、家族の心情を知っておくことも大切だ」と述べた。

このほか、札幌この実会・第2この実察（札幌）の木間洋文業務課長が、高齢の知的障

害者の支援について、ひきこもりの子を持つ親たちの団体スペース・からころ（札幌）の吉田容子代表が、自身の経験や会の活動を報告した。（編集委員 中村康利）

月22万円ファミリアの保育園 「服育」掲げ脚光
報道陣に公開された認可外保育園「ファミリア プリスクール夙川」。体感型の教育を目指す＝西宮市南郷町

神戸新聞 2016年8月26日



マンション1階に設置され、9月から始まる保育園＝西宮市南郷町

子ども服メーカーのファミリア（神戸市中央区）が9月1日、兵庫県西宮市の阪急夙川駅近くに認可外保育園を開く。英語やアートなどのカリキュラムに加え、服のセンスや創造力を磨く「服育（ふくいく）」を独自の方針に掲げる。保育料は月22万円（1～2歳）と高額だが、教育熱が高い阪神エリアで注目を集めている。

同駅から北東約400メートルのマンション1階（約180平方メートル）に開設し、1歳から就学前までの子どもが対象。保育ルームに加え、本を読んだり絵を描いたりする「ホール・アトリエ」を備える。昨春の東京都港区白金台に続く2カ所目の開園に、岡崎忠彦社長は「教育熱心な地域で近くに公園もある。関西でやりたい思いが強かった」と話す。

アパレルメーカーならではの教育方針が「服育」。あえて制服を設けず、子どもに服装をコーディネートさせることで「色や着心地で服を選ぶ楽しみを知ってもらいたい」と岡崎社長。英語▽アート▽ボディコーディネーション▽表現ワーカーなどの各カリキュラムには専門のプロが監修し、寝具や食器などは同社製品を使用する。

定員35人。月額保育料（週5日）は、1～2歳＝22万円▽3～5歳＝16万5千円と高額だが、7～9月に西宮市などで開く計32回の体験会・説明会はいずれもほぼ満席。今後も追加で説明会を開く予定という。ファミリア プリスクール夙川 TEL 079 8・78・6851（斉藤絵美）

夏休みの宿題 救世主は地域の大人 自治会が塾
自治会の役員に見てもらいながら宿題に取り組む子どもたち＝神戸市兵庫区東出町2

神戸新聞 2016年8月26日

8月も残り1週間を切り、夏休みの宿題の仕上げに精を出す子どもたちに、地域の大人が寄り添い、救いの手を差し伸べている。

神戸市兵庫区の東出町自治会館では週3日の午前9時から正午まで、自治会の役員が先生役の「塾」を開く。空調の効いた和室に地元の小中学生十数人が算数や作文、自由研究などを持ち寄る。



塾は、西出東出まちづくり協議会（平石一夫会長）が2010年から毎年8月に開いている。阪神・淡路大震災後、地域では空き地や空き家が増加。住民の高齢化も加速する中、異世代交流の場を通じて子どもたちの元気な姿や声を取り戻そうという思いからだ。

小学2年生の村上柚姫さん（7）は今夏、ほぼ毎回参加。「きょうは2桁の引き算をがんばったよ。なんとか2学期に間に合いそう」と日焼けした顔でにっこり笑った。（笠原次郎）

共生社会実現、被害者追悼に 相模原殺傷事件1カ月 京都新聞 2016年8月26日

「障害者やその家族が不幸だなんて勝手に決めつけないでほしい」と話す廣瀬さん（亀岡市）

相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で19人が刺殺され、27人が負傷した事件から26日で1カ月となる。「障害者はいなくなればいい」などと命と尊厳を踏みにじる植松聖容疑者の言動に対し、京都府内の障害者らは「それは違う」とあらためて悲しみと憤りの声を上げている。社会に潜む差別意識を指摘し、障害者との共生の意味を問いかけている。

「悔しくて悲しくて胸がいっぱい」。脳性まひで言語障害がある廣瀬ゆみ子さん（64）＝亀岡市＝は、全身を使ってゆっくりと言葉を絞り出した。安楽死を掲げ障害者を標的とした犯罪を正当化する植松容疑者の主張を廣瀬さんは否定し、「誰でも年を取れば障害が出てくる可能性がある。障害者のせいで税金が無駄になっているとは思ってほしくない」と訴える。

障害者への不当な差別的扱いを禁止した障害者差別解消法が4月に施行された。しかし、廣瀬さんは「いまだに差別や偏見はある」と言い切る。日常生活で車いすを使っているが、駅などでうまく進めない時、周囲の人から冷たい視線が送られることがあるからだ。事件後、植松容疑者の独善的な考え方に同調する人がいるのではないかとの不安は消えないという。

そううつ病の徳山環さん（49）＝京都市上京区＝は「役に立たないとみなし、差別するならば、精神障害者も標的になりかねない」と話す。大学院生の時、研究や人間関係のストレスで発症し、現在は障害者就労支援施設を利用する。「私たちは生産性は低いかもしれない。でも、働けるかどうかで人間の価値を決める社会は異常だ。違いを受け入れることが社会の豊かさにつながる」と強調する。



障害者ヘイトNO、世界からメッセージ 相模原殺傷 古田寛也

朝日新聞 2016年8月26日



事件後にニュージーランドで開かれた追悼集会。参加者は「日本、そしてあらゆる場にいる障害者と連帯を」などのメッセージを掲げた＝長瀬修・立命館大教授提供

相模原市緑区の障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者19人が死亡した事件は、26日で発生から1カ月。衝撃は世界に広がり、

6日に東京都内であった追悼集会には、各地からメッセージが寄せられた。

「私たちは、この悲劇をあおったヘイトに終止符を打つ決意をしなければなりません」(米国のキャロライン・ケネディ駐日大使)



東京大学先端科学技術研究センターの熊谷晋一郎准教授らが呼びかけて開かれた集会。メッセージは国内のほか、アジアや欧米、アフリカなど27の国と地域から、90以上に及んだ。

障害の有無を理由に、『私たち』と『彼ら』に分けられる世界を受け入れない」と訴えたのは、英国の大学教授ら6人。アイルランドの国立大教授は「私たちは人を有用かどうかで判断しません。そうした発想を支える功利的な考え方は、歴史のごみ箱へ投げ込まれました」。



働き方改革に 877 億円 17 年度厚労省概算要求

共同通信 2016 年 8 月 26 日

厚生労働省の概算要求のポイント 厚生労働省は 26 日、2017 年度予算の概算要求額が 31 兆 1217 億円となったと発表した。政府が重要政策と位置付ける「働き方改革」には、特別会計を含め 877 億円を計上。16 年度から内閣府に子ども関係予算の一部を移管しており、実質的な要求額は過去最大となった。

16 年度当初予算 30 兆 3110 億円と比べ、2.7%増。成長戦略や骨太方針に盛り込まれた施策を実現するための特別枠で 2167 億円を要求した。高齢化に伴う社会保障費の自然増は 6400 億円を見込んだ。

働き方改革では、非正規の正社員転換を促すキャリアアップ助成金を拡充し、454 億円を配分する。

厚生労働省の概算要求のポイント

- 要求額は 31 兆 1217 億円、実質過去最大
- 高齢化に伴う社会保障費の自然増は 6400 億円
- 非正規労働者の正社員への転換促進や長時間労働の是正などの「働き方改革」に 877 億円
- 待機児童解消に向け、保育の受け皿拡大やサービスの充実などに 1169 億円
- 極めて高額な新薬の適正使用に向けた体制整備のために 3.2 億円を充て、ガイドラインの作成やリスク情報を収集

厚労省、社会保障費増で実質過去最大の総額 3 兆 1 兆超 平成 29 年度概算要求

産経新聞 2016 年 8 月 26 日

厚生労働省は 26 日、平成 29 年度予算の概算要求額が 3 兆 1 兆 2 兆 1 兆 7 億円となったと発表した。高齢化による社会保障費の自然増などのため 28 年度当初予算 (3 兆 3 兆 1 兆 0 億円) と比べ 2.7% 増となり、実質的な要求額は過去最大となった。安倍晋三首相が第 3 次再改造内閣で「最大のチャレンジ」と位置付ける「働き方改革」には特別会計を含め 877 億円を計上した。

高齢化を背景にした社会保障費の増加分は 6400 億円を見込む。政府の中長期施策「ニッポン 1 億総活躍プラン」や成長戦略を実施するための特別枠で 2167 億円を要求した。

働き方改革では、非正規労働者の待遇を改善する「同一労働同一賃金」の実現に向け、非正規の正社員転換を促すキャリアアップ助成金を拡充し、454 億円を配分。長時間労働是正のため、職場の指導や監督強化に 10 億円、65 歳以降の定年延長や継続雇用制度を導入する企業支援に 26 億円を充てた。

待機児童対策には 1169 億円。保育所などの受け皿整備に 712 億円を配分し、育児休業終了後に年度途中から保育所を利用できる「入園予約制」の導入も自治体に促す。医

療では、極めて高額な新薬の適正使用に向けた体制整備に3・2億円を充て、ガイドラインの作成やリスク情報を収集する。

年金の受給に必要な加入期間を25年から10年に短縮する無年金者対策など社会保障・税一体改革で決めた施策は、消費税増税の再延期を受け、年末の予算編成過程で必要額を調整する。

29年度税制改正要望も公表。保育の受け皿の用地確保に向け、保育所などの敷地として貸し出している土地を親族から受け継ぎ、引き続き貸与する場合に相続税と贈与税を非課税とする制度の創設を求めた。

子育て関係予算の一部は28年度から内閣府に移管している。

家族題材の劇をリメイク きょうから名古屋で上演 中日新聞 2016年8月26日 熱のこもった稽古を続ける劇団のメンバーと弥富北中の生徒＝弥富市鋼浦町で



弥富市が本年度、市制十周年になるのを記念し、同市在住の劇作家弥富又八さん(50)＝本名・盛高志＝が家族をテーマにした自作のミュージカルをリメイクした。二十六日から三日間、県芸術劇場小ホール(名古屋市東区)で上演される。弥富北中学校ダンス部員もミュージカルに加わり、ゲストで踊る。

上演作は「ユウエンチの秘密」。廃園した遊園地で時折、奇妙な音がするといううわさの真相を確かめようと訪れた若者たちが、そこで隠れ住む人々と出会う物語。二時間の公演でロックバンドの生演奏やにぎやかなダンスが花を添える。

原作は四年前に発表した「ユウエンチの怪談」。大阪市で二〇一〇年にあった幼児虐待事件をきっかけに「家族とは何か」を考え、脚本化。弥富市が市制十周年の記念ミュージカル公演を依頼し、弥富さんがリメイクした。

大きく変えたのはダンス。弥富さんが主宰する劇団「アルクシアター」のメンバーと、創作ダンスで全国大会に出場経験もある弥富北中のダンス部員とOG約二十人が一緒に踊る。「活躍する古里の子どもたちの姿を見てほしい」と弥富さんが声を掛けた。

ダンス部は快諾。劇団員の指導も受けながら、レッスンを重ねてきた。出演する二年の竹下実花さんは「プロと共演するのは初めて。演技を見て学んだことを舞台上で表現したい」と胸を躍らせる。

「本名は音の響きが普通なので、当時所属していた劇団長に芸名を依頼したら、実家の住所だった」と笑う弥富さん。「高い建物が少なく、空が高く見える。そんなのびのびとして自由な弥富が大好き」と、十歳の長男と妻と三人で住み続けている。「大好きな弥富市を自分の作品で元気づけられれば、うれしい」

名古屋市での公演は二十六日午後七時、二十七日午後二時と七時、二十八日午前十一時と午後四時の計五回。一般は当日四千円、高校生以下三千円。九月二十五日に弥富市総合社会教育センターで開かれる記念公演の申し込みは終了した。(問)劇団アルクシアター＝080(3638)0423 (酒井博章)

親が入所する施設の職員とどう接したら良いか？ 納得いくまで話し合いを

北海道新聞 2016年8月26日

<質問> 親が入所する施設の職員とはどう接したら良いですか。希望などは聞いてもらっていいのでしょうか。

<回答> 施設で働く私たちは入所されている方が安心・安全でその人らしく生活でき、少しでも楽しい時間をもてるようなケアをさせていただいております。ただ、なんといたてもご家族の方が来られた際の笑顔や楽しい声にかなうことはありません。

ご家族のなかには「親を世話してもらっているので申し訳なくて何も言えない」、「こんなことを言うと嫌われるのではないか」などと考える方もいらっしゃるようです。ご家族の方々を私たちは「入所されている方を一緒になって支える仲間」と考えていますので、あまり気兼ねすることなく、希望なども伝えていただければと思います。

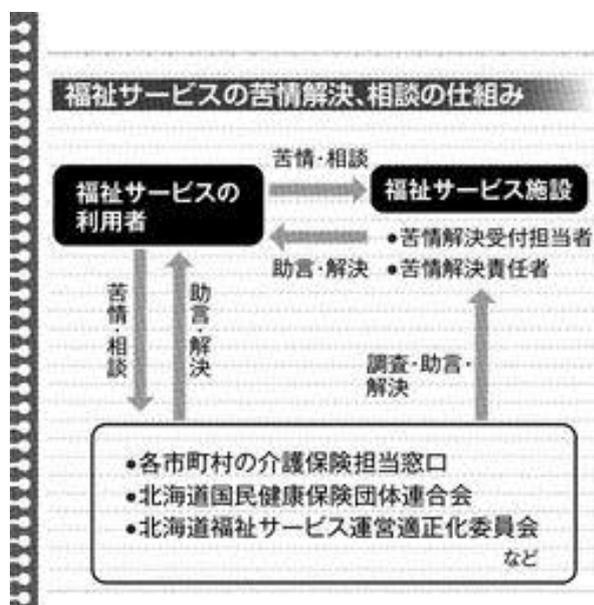
ただ、どの程度の希望まで伝えていいのか、かなえてくれるのかについては施設によって違いがありますので、しっかりと職員と話し合いをすることが必要です。できることできないことを施設側もきちんと説明してくれます。あまり断定的なことは言えませんが、家族からの希望に聞く耳を持たない施設はサービスの質に疑問があるかもしれません。

施設サービスを利用するとき、介護保険施設とケアハウスや有料老人ホームなどの場合は、どのような生活をするかについて書かれた施設ケアプラン、サービス付き高齢者向け住宅などで在宅サービスを利用する場合は、どのサービスをどれくらい使うかが書かれた居宅ケアプランが作成されます。

このケアプランを作成するときこれまで本人がどのような生活を送ってきたか、これからどんな生活をしたいか、家族としてどのような生活を送ってほしいかについて聞き取りをしますので、その際に希望を伝えることができます。またケアプランは一定期間ごとに更新されますので、常に新しい希望を伝えることもできます。

また、面会に行った際に気が付いたことなども伝えていいでしょう。冒頭にも書いた通り私たちは精いっぱいケアをさせていただいておりますが、どうしても職員の目線で見ている場合がありますので、家族として気になったことなどを言うていただくことでケアの見直しができます。

なお、ケアの仕方や職員の態度、施設の運営などで納得がいかない場合は、各施設に苦情解決受付担当者や苦情解決責任者が決められていますので、相談することもできます。さらに施設に直接言いにくい、他の施設の状況はどうなのか知りたい場合などは、各市町村の介護保険担当窓口のほか、北海道国民健康保険団体連合会（（電）011・231・5175）、北海道福祉サービス運営適正化委員会（（電）011・204・6310）などでも相談を受けています。（北海道老人福祉施設協議会会長、特別養護老人ホーム厚別栄和荘総合施設長 瀬戸雅嗣）



逃げる「避難場所」、被災後過ごす「避難所」 高知県で理解進まず

高知新聞 2016年8月25日

地域、家庭で話し合いを

「避難場所」と「避難所」の違いは？ いずれも災害時に“避難する施設”だが、その機能は異なる。東日本大震災の教訓から2013年に法的に区分されたものの、名称が類似し、役割の違いが分かりにくい。対応できる災害が違う場合もある。逃げ間違えば「命を落とす可能性」も指摘されるが、高知県内の住民に理解が広がっていないのが実情だ。津波の時、どこに逃げればいいのか知っていますかー。

“答え”から説明すると、「避難場所」は、災害時に命を守るために逃げ込む山やビルなどを指し、正式には「緊急避難場所」と言う。これに対し「避難所」は、被災後に住民が生活する体育館や公民館などで、2013年に改正された災害対策基本法で定義された。**津波避難場所を示す看板。各自が日頃から逃げる場所を考えておく必要がある（高知市塩屋崎町1丁目）**

きっかけは東日本大震災。当時は避難すべき場所の定義が曖昧だった。岩手県釜石市で「避難所」の位置付けだった施設に住民が避難し、50人以上が津波にのまれた。こうした教訓から避難施設が法的に区分された経緯がある。

2016年1月1日時点で、高知県内には行政指定の「避難場所」が976カ所、「避難所」が571カ所あるが、「場所」と「所」の機能の違いが、地域住民に浸透しているとは言えないのが実情だ。

高知市下知地区減災連絡会の森宏会長（82）は「多くの人は知りませんね。訓練の時にはいつも、できるだけ高い所に上がってほしいと呼び掛けています」。

紛らわしいのは二つの名称が似ていることに加え、「避難場所」が洪水や地震など災害ごとに分類されているからだ。

例えば、高知市の浦戸小学校は、高知市指定の洪水・地震の避難場所だが、津波は対象になっていない。ひとくくりに避難場所と言っても、施設によって対応できない災害がある。

「『避難』という文字や看板がある所に逃げればいいと思っている人が多い」

高知県内で防災啓発活動に取り組む高知県OBらの「こうち防災備えちよき隊」の隊長で、元高知県危機管理部副部長の北川尚さん（62）は、活動を通じてそんな実感を持ち、各地の講演では避難施設の種類を説明するという。

ただ「大事なのは言葉を覚えることではない」とも指摘し、こうアドバイスする。「正しい場所に逃げて、命を守ること。地域や家庭で、どこに避難すればいいのかしっかり話し合い、頭にたたき込んでほしい」



三重・名張の障害者作業所、地域住民らと夏祭り 産経新聞 2016年8月26日

名張市西原町の障害者作業所「Koboreもんぐらす」で24日、「れもんぐらす夏祭り」があった。運営する社会福祉法人鶯鳴会と名張ロータリークラブ（RC）が協力して初めて開き、RCメンバーと通所者、地域住民が交流した。

夏祭りはこれまで、施設関係者を中心に開催。今年は同RCが支援事業の一環で協力、地域住民らを招いて盛大に開催することに。

祭りでは、施設スタッフやRCメンバーが焼きそばやポップコーンなどを通所者らに振る舞った。市内に住む通所者の男性（18）は「作ってもらった焼きそばはおいしい。来年もやってほしい」。RCの山崎哲也会長は「今後も支援を続けていきたい」と話した。

<待機児童>定義見直し 実態合わず、来月検討会 毎日新聞 2016年8月26日

厚生労働省が、認可保育所などに入れられない「待機児童」の定義の見直しを検討することが分かった。保護者が育児休業中に除外される「隠れ待機児童」の扱いなど、現在の待機児童の解釈は自治体ごとに異なっており、待機児童の定義を実態に近づける必要があると判断した。9月にも新たな検討会を設け、年度内に統一的なルールをまとめる。

厚労省は現在、待機児童を「親の仕事や病気など認可保育所に入る要件を満たすのに、定員超過などで入れない子ども」と定義。昨年4月時点は5年ぶりに増えて2万3167

人だった一方、保育所に入れなくても待機児童に含まれない「隠れ待機児童」が約6万人と、待機児童数を大幅に上回っていた。

今年4月時点の待機児童数が、速報値で約2万3000人と昨年とほぼ同じ人数で、待機児童の約7割を1、2歳児が占めることも明らかになった。定義を見直した場合、従来の集計に含まれなかった「隠れ待機児童」が加わって待機児童が大幅に増え、対策強化が必要になる可能性がある。

厚労省の集計は自治体からの報告を基にしているが、保護者が育休中の場合を待機児童に含めるかや、希望する認可保育所に入れなかったのに他に入れる保育所がある場合を算入するかなどは自治体の判断に委ねられ、自治体や保護者らから「実態を反映していない」との指摘が出ていた。

厚労省は不足している保育士確保のための追加対策もまとめる。保育士の基本給を引き上げた事業者に予算を重点的に配分することなどが柱で、保育士の定着を目指す。【阿部亮介】

社説：パラリンピック 混乱なく成功を目指せ [京都新聞 2016年08月26日]

リオデジャネイロ・パラリンピックが開幕を直前に混乱を見せている。国ぐるみのドーピングによってロシアが国際パラリンピック委員会（IPC）に参加を全面除外されたほか、現地のスポンサー不足による資金難から会場の一部が変更された。

開幕する来月9日まで2週間を切った。参加者は4千人を超え、障害を乗り越えて競うアスリートの純粋な姿は人々に感動を与える。成功を祈りたい。

ロシアの不参加は、7月に世界反ドーピング機関（WADA）調査チームの報告書で不正が認定されたためだ。WADAは国際オリンピック委員会（IOC）とIPCにロシア選手団のリオ大会の除外検討を勧告した。IPCはIOCが見送った全面除外を決め、ロシアがスポーツ仲裁裁判所（CAS）に提訴していたが、聴聞会を開いても決定は覆らなかった。

選手に薬物をとらせて競技に影響を与えることは許されない。パラリンピックにまで広がった薬物汚染は驚きだった。

五輪にロシアの陸上選手団が参加できなくなったのは残念だ。国ぐるみとされたドーピングと決別し、4年後の東京大会からは全面復帰してもらいたい。

パラリンピックではロシアは前回のロンドン大会で金メダル数は中国に次ぐ2位の36個という強豪国である。18競技に267選手の出場枠を得ていた。特に陸上や水泳で確固たる地位を築いており、障害者のスポーツ大国なしの大会となる。

ロシア選手団に代わる出場枠の再配分も始まっている。日本にも3競技の4選手分が割り当てられた。参加する選手131人には、期待にこたえて大会を盛り上げてもらいたい。

障害者スポーツの祭典であるパラリンピックは、第2次世界大戦後に戦争で傷ついた兵士のリハビリを目的に始まった。オリンピックに続く同都市での開催は、1960年のローマ大会以来、続いている。

もともと平和的で福祉的な側面が強かった。近年は競技性が強まり、スポーツとしての意義が強調されている。走り幅跳びには、オリンピックへの同時出場は断念したものの、義足のドイツ人選手が登場し、好記録が期待されている。

それでも、オリンピックに比べると、入場券の販売不振や民間企業の提供資金不足は深刻だ。東京大会でも必要な施設の規模を考えて、スポンサーの開拓やボランティアの確保策などを急ぐべきだ。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

